

ホウレンソウ

産地の特徴

高山市では、高冷地の冷涼な気象条件を利用し、春から秋にかけて飛騨ほうれんそうの栽培が盛んである。

飛騨ほうれんそうの栽培は昭和40年頃から本格的に始まり、その後当地で開発された雨除け施設栽培（ビニールハウス）による技術の普及と水田転作によりその栽培面積が拡大しており、令和5年においては延べ面積で約919ヘクタール栽培されている。

夏場は生育期間が1ヶ月ほどと短く年間5連作も可能であり、4月から11月まで連続して京阪神市場を中心に中京市場、京浜市場へ出荷されている。

平成15年度からは化学肥料と化学合成農薬をそれぞれ従来より30%以上削減した栽培体系・ぎふクリーン農業（令和6年3月31日で制度終了）を取り入れ産地として減化学肥料・減農薬が根付いた。令和6年4月1日以降、飛騨蔬菜出荷組合の独自基準「ひだクリーン栽培基準」により、減化学肥料・減農薬を継続している。今後はより高度なGAP（農業生産工程管理）に取り組み、更なる安心な生産に努めていく。

飛騨ほうれんそうの年間の栽培体系

飛騨ほうれんそう作型(例)		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
越冬作型		■	■	■							○	■	
年間5作		○	—	—	○	—	—	○	—	—	○	—	—
年間4作		○	—	—	○	—	—	○	—	—	○	—	—

○:播種 ■:収穫



年産別ホウレンソウの生産推移

